

湖北地域の医療

皆さんは湖北地域の医療についてどのようなイメージがありますか。

全国的に地方の医療の現場では医師不足ということがメディアで取り上げられています。

湖北地域も例外ではありません。報道などで「医師不足」といった文字を見た人も少なくないのではないのでしょうか。

「医師不足」が医療の質の低下につながると感じる人が多いと思いますが、湖北地域では必ずしもそうではありません。今回の特集では、それらを含め、湖北の医療の環境を紹介します。

(高度)急性期医療とは

急性期医療という言葉聞いたことがありますか？

「急性」という言葉は「急に症状を発して病気の進み方が速いこと」を指します。このような状態の患者に施す医療を「急性期医療」と言い、更に高度で密度の高い治療を必要とする患者に施す治療を「高度急性期医療」と言います。

現在、湖北地域で急性期医療を行っている病院は市立長浜病院、長浜市立湖北病院、長浜赤十字病院の3つ、高度急性期医療になると市立長浜病院、長浜赤十字病院の2つとなります。



特集 「湖北地域の急性期医療」のこれから

※18ページの「市民からのメッセージ」の対象です。

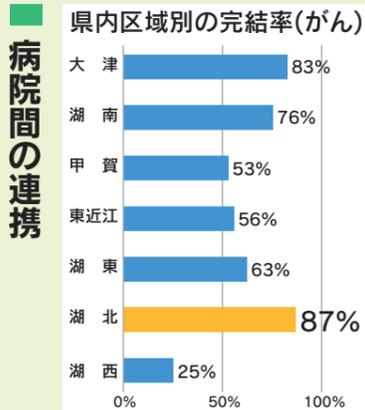
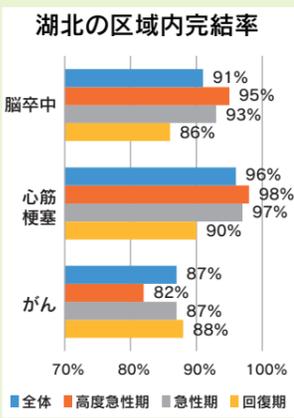
病院間の連携と医師個人の努力で守られている「湖北の医療」

県内でも有数の区域内完結率の高さ

他の地域に転院しなくても、その地域内で医療を受けることができることを「区域内完結率」といいます。「区域内完結率」が高ければ高いほど市民の皆さんが安心して医療を受けられることとなります。

どの症状、どの患者の状態でも、90%近くの数値となっています。いずれの症状でも県内の平均値を上回っており、かなり高い数値となっています。

また、救急医療についても市立長浜病院、長浜赤十字病院、長浜市立湖北病院の3つの病院がそれぞれの役割を担っており、市内のすべての地域で安心できる医療環境が整っています。



病院間の連携

湖北地域の急性期医療を行う病院にはそれぞれ得意分野や特徴があります。患者の症状に合わせて、役割分担を行い、より良い医療を受けられる体制を作っています。

例えば出産の際、検査で状態が良くないとわかったとき、生まれてくる子どもの安全を考え、市立長浜病院から、小児科医が充実している長浜赤十字病院へ転院していただいています。

一方で呼吸器系統の疾患で専門性が高い治療が必要となる場合は、長浜赤十字病院から市立長浜病院へ転院していただいています。それぞれの病院が連携し、補い合っており、質の高い医療環境を整えています。

医師個人の努力

湖北地域も全国の地方と同じように医師数が不足しています。人口10万人に対しての医師数では、187.2人と、全国平均251.7人、滋賀県平均231.4人を大きく下回っています。また、病院の中でも診療科間の医師数に偏りがあり、常勤医師が少ない診療科も存在します。

医師が不足する中、当直業務や様々な病院運営業務に携わりながら通常の入院・外来診療を行っています。

それでも、「区域内完結率」を高い水準で維持できるのは上記の病院間の連携に加えて、業務負担が大きい中、診療にあたる医師ひとり一人の努力と使命感があるからなのです。



湖北地域の医療課題

これから先、働き方改革等で、必要とされる医師数がさらに増加します。また、少子化、高齢化が進んでおり、流動的に変化している患者層に、医療の現場も対応していかなければいけません。

これらの課題を抱える中、これまでの高い質の医療を維持し、さらに発展させるための、各病院の取組を紹介します。

「こんなことやっていきます！」

「医師体験ワークショップ」

市立長浜病院と長浜赤十字病院の協力を得て湖北医師会が毎年行っています。中高生を対象に、医師の指導のもと、医療体験を行うことで、興味を持ってもらい、将来の医師人材確保につなげます。



既存の医療確保と更なる発展

市立長浜病院は長浜赤十字病院と切磋琢磨する中で、高度急性期・急性期医療を中心とした高いレベルの医療が提供できるように努めてきました。また、長浜市立湖北病院はへき地拠点病院として、保健・福祉から医療まで広い領域において、早くから中核病院の役割を担ってきました。



野田 秀樹
長浜市病院事業管理者

長浜市病院事業の今後については、これまでの病気を治す既存の医療確保に留まらず、市立長浜病院を核として高い精度の発症前診断、発症前の治療介入、そして発症予防等へと導くような先制医療も視野に入れた予防医療に力を注ぎ、地域住民が健康でいきいきと暮らし、夢が持てるような医療の提供に取り組むべきと考え、準備を進めているところです。